



# 鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

## イエスの言葉

『わたしの葬りの日のために、それを取っておいた』

聖書(ヨハネ福音書 12章7節)

牧師 河合裕志

十字架の待つエルサレムにイエスと弟子達が向う。その途次、オリーブ山斜面にあるベタニア村の友人達の所によることに。それはラザロ君とその姉妹、マルタとマリアの家だった。

夕食の用意がされ、一同が楽しそうに食事をしているところに「マリアが純粋で非常に高価なナルドの香油を一リトラ持って来て、イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐった。家は香油の香りでいっぱいになった」。

この香油はヒマラヤが原産地。ナルドという根からとられアラバスターの瓶に詰めてインドから輸出された。一リトラは326g、マリアはこれを宝物のように大事に所持していた。

そこにイエスの到来、マリアは意を決してこれを惜しげもなく全部をイエスの両の足にしていねいに塗った。なんでこんなことを。①イエスへのあふれるばかりの感謝からか。死んでしまった兄弟ラザロをイエスが生き返らせてくれたお礼ということ。これは前の11章に報告されている。愛する者が生き返る、これ位嬉しいことはない。

②マリアはイエスをメシアと見たのではないか。人々は救世主、メシア(元々は「油注がれた者」の意)の到来を首を長くして待つ

ていた。マリアはイエスこそそれだと確信。それで香油を注いだ。今や文字通りイエスは油注がれた者、メシアとなった。

さてここに冷やかな声が上がった。「なぜ、この香油を三百デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか」。これは後にイエスを裏切るユダから出た。しかし考えてみればこれは至極もつともな発言。一デナリオンは当時の労働者一日の賃金に相当。かなりの額。

誰も反論できないと思われたその時にイエスの言葉があった。『この人のするままにさせておきなさい。わたしの葬りの日のために、それを取って置いたのだから。貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるが、わたしはいつも一緒にいるわけではない』。

そうか、そういう訳か。これがホントだとマリアの香油注ぎの動機として③イエスの葬りの準備もあげねば。そしてこれが一番の動機かな。マリアはイエスの死の近いことを直感してこの挙に。遺体を葬る際に油を塗る。これを今予めマリアはした。生前葬のよう。これをイエスは喜んだ。有難く思った。私達もイエスに何かしてイエスを喜ばせたいもの。

### 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時